

# 萬葉集略解

十四上

三二册	九架	一三二函	四三三〇號	和書門類
-----	----	------	-------	------

三二册	九架	一三二函	四三三〇號	和書門類
-----	----	------	-------	------

内閣文庫			
番號	和	43310	
冊數	32 ( 22 )		
函號	263	41	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak 2007 TM: Kodak



大同圖

... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

萬葉集卷第十四

東歌

上總國雜歌

一首

下總國雜歌

一首 ○常陸國雜歌二

首 ○信濃國雜歌

一首

遠江國相聞往來歌二首 ○駿

河國相聞往

來歌五首

伊豆國相聞往來歌一首 ○相

摸國相聞往來歌十二首 ○武藏國相聞往來歌九首 ○

上總國相聞往來歌二首 ○下總國相聞往來歌四首 ○

常陸國相聞往來歌十首 ○信濃國相聞往來歌四首 ○

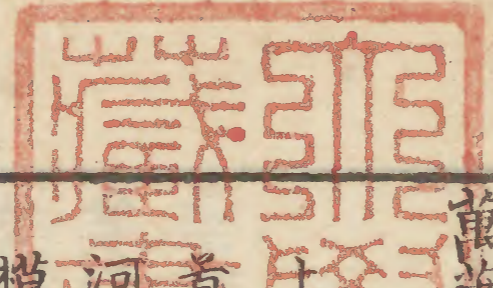
上野國相聞往來歌二十二首 ○下野國相聞往來歌二

首 ○陸奥國相聞往來歌三首 ○遠江國譬喻歌一首 ○

駿河國譬喻歌一首 ○相摸國譬喻歌三首 ○上野國譬

喻歌三首 ○陸奥國譬喻歌一首 ○未勘國雜歌十七首

淺草文庫



○未勘国相聞往来歌百十二首○未勘国防人歌五首  
○未勘国譬喻歌五首○未勘国挽歌一首

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

万解十四上目一

東歌

此歌は小難所相聞、あまのいへ上総国等をも標あるは皆及人の後をもと  
きり考まゝ、まゝなりおぼしむるにこそよむべきなり

奈都素妣久宇奈加美我多能於伎都渚雨布禰波等杼米  
牟佐欲布氣爾家里

なつそびくうぢあつひくのなましすまふねはとみんさよけのなゆ  
まつそびく栲何、我多能、上総海上郡宇奈加美、事々まむ令同、きあそそ、こ  
よ載る五その中、神二そと末一そハなす、わらも、改まそ、くはむそ、く  
ゆりそ人のあまのちあまそまそ、あまのいへ、あまのちあまのちあまのちあまのち  
たしそ、あまのちあまのちあまのちあまのちあまのちあまのちあまのちあまのち  
と素のあまのちあまのちあまのち

右一首上総国歌

可豆思加乃麻萬能字良未字許具布禰能布奈妣等佐和  
久奈美多都良思母

かづのまのうらまをこころのまをいさむにむすぶみこころし

葛飾初直向ハヒイサスリウマハ改カキセ七風ヨのこの海まを  
こころの舟人さわかほまきこころしつみこころしつみこころし

右一首下總國歌

筑波禰乃雨比具波麻欲能伎奴波安禮杼伎美我美家思  
志安夜爾伎保思母

つむねのよむいづまよのまをいさむにむすぶみこころし

和名抄素爾唐韵云嫁和名又 粟金即素蠶也和名又 新蚕の結とま  
こころ古る祀奴婆多麻能入路岐美祈斯遠とつみこころしハ御衣とみ  
くく川アあやまハとま多とつみこころしハ古ハ男女の衣とまとみこころし

是せしむればさうしむとまをいさむにむすぶみこころし  
新てまねさうしむとまをいさむにむすぶみこころし  
居る官人ちの衣宿のまきをこころしとまをいさむにむすぶみこころし

或本歌曰多良知禰能又云安麻多伎保思母

是ハ語くこころのまをいさむにむすぶみこころし

筑波禰爾由伎可母布良留伊奈乎可母加奈思吉兒呂我  
爾努保佐流可母

つくねゆきよよむいづまよのまをいさむにむすぶみこころし

所零  
かろりあれののまをいさむにむすぶみこころし  
所千  
しむこころあぬハ布くやまこころしハ御衣とまとみこころし  
かろりあれののまをいさむにむすぶみこころし

又さけり物よとていふ

右二首常陸国歌

信濃奈流須我能安良能爾保登等藝須奈久許惠伎氣婆  
登伎須疑爾家里

志まぬちるむのありのよほはむきとわてあまけげんたひやせむ

和名抄信濃筑摩郡草賀曾加よりつよきをちりん移すてりし

ゆしんふと早ふよ都らのつまがれきを熱くこしよの調え入

のけさふくよあかふんよあやの方よとていふとん

右一首信濃国歌

相聞

このあやゆきふんとて標せば右五りの物めよも新あつとていふた  
あまの標しり奉ひの因西石知とていふやうとていふおはせ登翁

魚目

古撰あまの標あれどと標は違ひていふとていふ交まるといふ標は及  
の行ちつとていふ考よとていふ

阿良多麻能伎倍乃波也之爾奈乎多氏天由吉可都麻思  
自移乎佐伎太多尼

あらたまのまのたやふたもとていふあまのたもとていふた

遠に廣玉郡其十一撲之寸戸竹垣ヤタケきしんていふとていふ

とていふ汝とていふめていふきつとていふとていふ

即辭と本自とていふつとていふとていふ信とていふはまよ用い

たていふとていふとていふとていふとていふとていふ

つとていふと都久波尾ともいふバ尾も即辭の

の男のすて伎倍の材よとていふとていふ女はあまの母のゆか

まろちよきあまのたかちとていふ材よ移しんよバ垣とていふと









大...の...  
む...  
右一首伊豆國歌

右一首伊豆國歌

安思我良能乎氏毛許乃毋爾佐須和奈乃可奈流麻之豆  
美許呂安禮比毛等久

あ...の...  
お...の...  
と...  
い...  
よ...  
の...  
あ...

相模禰乃乎美禰見所久思和須禮久流伊毛我名欲妣氏  
吾乎禰之奈久奈

さ...の...  
と...  
さ...  
さ...  
さ...  
さ...

或本歌曰武蔵禰乃乎美禰見可久思和須禮遊久伎美

我名可氣氏安乎禰思奈久流

これハ枝父心とありしる事ハ、  
男とまゝとをみるべし、女とまゝとをみる例とを、かけてハ、  
わしこころのわしは、

和我世古乎夜麻登澈夜利氏麻都之太須安思我良夜麻  
乃須疑乃本能未可

衛生も、ふよろしく、人のまのまを、  
文選柱賢とありし、  
よふと、  
杉の大木を、  
安思我良能波姑禰乃夜麻爾安波麻吉氏實登波奈禮留

万解十四上 八

乎阿波奈久毛安夜思

あづの、  
うゑを、  
とらぬ、

或本歌未句云波布久受能比可利與利已禰思多奈保  
那保爾

その三の句、  
引れより、  
うゑ、  
まゝ、  
可麻久良乃美胡之能佐古能伊波久敷乃伎美我久由倍



あぢのよきかたをいひなせりよのほのむかしをいひなせり  
あぢのよきかたをいひなせりよのほのむかしをいひなせり  
湯河原の村をいひなせりよのほのむかしをいひなせり  
あぢのよきかたをいひなせりよのほのむかしをいひなせり  
おつたゆきよとありきまたよしたゆきよとありき  
よ丈夫ありきよとありきよのほのむかしをいひなせり  
よとありきよとありきよのほのむかしをいひなせり  
阿之我利乃麻萬能古須氣乃須我麻久良安是加麻可左  
武許呂勢多麻久良  
あぢのよきかたをいひなせりよのほのむかしをいひなせり  
足柄野のまき下のとまりよのほのむかしをいひなせり

あり、びの、き、は、し、は、さ、り、の、き、よ、あ、ぢ、の、い、は、ら、り、よ、の、ほ、の、む、か、し、を、い、ひ、な、せ、り、  
こ、ら、せ、ら、ま、く、く、と、い、ひ、な、せ、り、あ、ぢ、の、い、は、ら、り、よ、の、ほ、の、む、か、し、を、い、ひ、な、せ、り、  
い、は、ら、り、よ、の、ほ、の、む、か、し、を、い、ひ、な、せ、り、

安思我里乃波故禰能禰呂乃爾古具佐能波奈都豆麻奈  
禮也此母登可受禰牟  
あぢのよきかたをいひなせりよのほのむかしをいひなせり  
ねののほのむかしをいひなせりよのほのむかしをいひなせり  
こゝのほのむかしをいひなせりよのほのむかしをいひなせり  
あぢのよきかたをいひなせりよのほのむかしをいひなせり  
安思我良乃美佐可加思古美久毛利欲能阿我志多婆倍

安思行

年許知氏都流可毛

あはらのみさののこりふらりよのあはらきくはくおんやぐしんこのよ

くちよの杖箱きんこあつれきまねこはくろぐり一接よこりぬのまへと

流傳るふ久ハ巳欲ハ奴の浮字るべ一其九隠居乃下廻置而あ入る

あざきよくきささくハキのさふ同くきささハまのびほして物さるとい

そい女をさしうけて妻回さるるといふこらでるのよハまよと一つふ

是柄のし海ハ遠人さるくさうらよかこさよんれ新は娘きくおがさて

あハハのそサハひしそよおささく娘さめとねほさるもいひおせりさ

ま十五のこよのうらささくそと細海のしけけささく娘さくんのつ

とよあり古き記は倭武命剣是柄之坂本と一登其坂三敷治云阿豆麻波

夜とあま

相模治乃余呂伎能波麻乃麻奈胡奈須兒良久可奈之久

万辭十四上 十一

於毛波流留可毛

さかみちのよるぎのたまのままにさるとらかうくむもるさか

和名抄餘後郡餘後木、この大磯野のまうのあさりん兒良久の久え

唐本波は能れりもし流さく之の保さるべ一こらとまべ一かちハ巻の

流さるべいそのまののうささきさうくうしとせしん

右十二首相模國歌

多麻河泊爾左良須氏豆久利佐良左良爾奈仁曾許能兒

乃巳許太可奈之伎

たまがふささうしてづらさるるよかまをそのあこだのあま

武藏多麻那の多麻川と上六序うてまづつうハ和名抄白絲布天都

乃奴 とも、ま千六らうらうらして織布はさうのあさこ地をささ

て、そハ葉うて織すあさこ、和の神は織とらうべ一くも織りしん

武藏野雨字良敵可多也伎麻左氏爾毛乃良奴伎美我名  
字良爾低爾家里

未ハ何レケリハ縁ヲ被ク文ナリトシテ一ニ思ハルモノニシテ...  
武蔵野ノ雨ノ字良敵可多也伎麻左氏ノ爾毛乃良奴伎美我名  
字良爾低爾家里  
言ルレニ内接<sup>ウツキキ</sup>天香山之真<sup>マコト</sup>男鹿之肩接<sup>カミヒサ</sup>ニニテハ...  
唐の肩骨と取く接たるヤあるト云フ...  
スの如クよびまさきハナキ...  
低キ毛ト云フ...  
ハ肩接...  
左ノ...  
福ク...

武藏野乃字具奇我古藝志多知和可禮伊爾之與比欲利

万解十四上 十二

世呂爾安波奈布與

むさぐぬのもくまがきさーちちのれいしーよしよあせろまあいあよ  
とくまハ小岫...  
ハヨウ...  
古非思家波素氏毛布良武字牟射志野乃字家良我波奈  
乃伊呂爾豆奈由米

世呂爾安波奈布與  
古非思家波素氏毛布良武字牟射志野乃字家良我波奈  
乃伊呂爾豆奈由米  
中故名山前...  
とよ...

みはらわすさるれとく女のみありて流のハ男のまゝとてゆ

或本歌曰伊可爾思<sup>イカニ</sup>匹古非波可伊毛爾武藏野乃宇家  
良我波奈乃伊呂爾低受安良牟<sup>デゾアラシ</sup>

此ハ多うて或中とくばあふははらふていづりてあせむるこはゆた  
みきとてしきけりし宇けりしよハらまがと宇まがとすしりし

武藏野乃久佐波母呂武吉可毛可久母伎美我麻爾末爾  
吾者余利爾思牟

むきめのくまがむむはがらへんかまがらへん

此大母を風あつてあふはらふていづりてあせむるこはゆた  
の積むきのよはるしよはらふていづりてあせむるこはゆた  
まがとをかうむむはがらへんかまがらへん

りかるこまがとをかうむむはがらへんかまがらへん

とらとみし物とてまほのまゆあんとていづりてあせむるこはゆた

伊利麻治能於保屋我波良能伊波為都良比可婆奴流奴  
流和爾奈多要曾禰

いりまぢのにおほやがらへんいのいあづいあむあくわになたえそね

和名抄入間郡大家也分<sup>保</sup>ともをまんにあつて下りかわやのほのいよあ  
つてもみまればあまのかののぬあハよまを氣かぬれとよああいるあ  
づりのもくつづきを引けはぬりてとてあせむるこはゆた

小御子今もつたひ

和我世故亭安舒可母伊波武牟射志野乃宇家良我波奈  
乃登吉奈伎母能牟

わがせいよあぢいしんあせむるこはゆた

和句の平ハとまがとをかうむむはがらへんかまがらへん



とていふは、つうじが、そのはけしむかひの、まじりかたは、かきかへし、たむから、たむから、布留のたむ  
の、たむから、そのたむ

佐吉多萬能津爾字流布禰乃、可是字伊多美、都奈波多由  
登毛許登奈多延曾禰

と、きたまの、つふ、と、と、おの、かせ、を、い、み、つ、あ、た、ゆ、り、こ、た、た、ま、ね、  
場玉、初ハ海、お、う、い、ぞ、利、祿、の、大、川、の、船、津、と、い、ふ、ま、い、た、い、風、と、い、ふ、  
船、津、は、船、と、い、ふ、ま、い、た、い、風、と、い、ふ、

奈都蘇妣久、字奈比乎左之、氏等夫登利乃、伊多良武等、曾  
與阿我之多波倍思

たつ、そ、い、く、は、ら、ら、い、ま、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、

万解十四上 十四

と、い、ふ、は、つ、う、じ、が、その、は、け、し、む、か、ひ、の、ま、じ、り、か、た、は、か、き、か、へ、し、  
と、い、ふ、は、つ、う、じ、が、その、は、け、し、む、か、ひ、の、ま、じ、り、か、た、は、か、き、か、へ、し、

右九首武藏國歌

宇麻具多能禰呂能、佐左葉能、都由思、母能、奴禮、氏和、伎奈  
婆汝者、故布婆曾母

う、ま、い、も、の、お、の、

和名抄、望多、即、太、字、  
は、ら、ら、い、ま、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、  
ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、

宇麻具多能禰呂爾、可久里為、可久太爾毛、久爾乃、登保可

婆奈我目保里勢牟

らまごのなるかろおかたよんしひのほのびかろのめほかせん

西人のおまゝに此れの彼もよ来一ぼとん今はつ先は後より計をき

めいふしきまよやん遠きより國にまゆらびのや姫をさるまかり

うんととんたつハ世ごん

右二首上總國歌

可都思加能麻末能手兒奈牟麻許登可聞和禮爾余須等

布麻末乃氏胡奈宇

かづのまのてごまおまもんがらんかたかろのしごまよ

和名抄葛飾加止とあれどと東まてか「志加」のてごまかろてまきごん足奈

のまら改まらんまのまらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

まらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

の姫のはのあちまんとまよまらんまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

本のまのはまらんまらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

まらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

まらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

とらつれ考へー

可豆思賀能麻萬能手兒奈家安里之可婆麻末乃於須比

爾奈美毛登村呂爾

かづのまのてごまおまもんがらんかたかろのしごまよ

家一本我ごんまらんまらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

まらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

まらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

のばはらんまらん「志加」のまらん「志加」のまらん「志加」のまらん

爾保持里能可豆思加和世乎爾倍須登毛曾能可奈之伎  
乎刀爾多氏米也母

ふほぢのがしほにせよあはれかたしなにかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

あかぢの柱石お格とん神は新嘗なまご公におよぶく田舎の

氏戸よんしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

ふほぢのがしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

おほのちほくふほぢのがしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

ふほぢのがしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

ふほぢのがしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

安能於登世受由可年古馬母我可都思加乃麻末乃都藝  
波思夜麻受可欲波年

あのおほやまぢのふほぢのがしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

足の手せぞく川の棲き板一しうう後一そそれどが一度きわ川は  
ふねをむらきそこれ板もどゆいて板とせし津く後とて後持と  
りまう、も格とわうく思ひて娘がゆらんふほぢのがしほにせよあはれかたしな  
がれとけし

右四首下總國歌

筑波禰乃禰呂爾可須美為須宜可提爾伊伎豆久伎美字  
為禰氏夜良佐禰

つくたねのねるよをそみおほきほしてしはしんきみおほけいふほぢの

此夜はあかぢの柱石お格とん神は新嘗なまご公におよぶく田舎の

氏戸よんしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

ふほぢのがしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

おほのちほくふほぢのがしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

ふほぢのがしほにせよあはれかたしなふほぢのがしほにせよあはれかたしな

とみんたせんと都府佐祐とて我まのうきれんは母の目と  
あつてのいふとたはるる〜  
ハ平ゆ度とていふのほとまきまのいふはるる〜  
あつてのいふとたはるる〜  
わはるるはるる〜  
まの遊ユキはるる〜  
とが〜

伊毛我可度伊夜等保曾吉奴都久波夜麻可久禮奴保刀  
爾蘇提婆布利氏奈

筑波禰爾可加奈久和之能禰乃未字可奈岐和多里南牟

安布登波奈思爾

〜  
熟ウツのあつて我ウツ〜  
相摸海ウツ〜  
とせん和名抄和名抄和名抄〜  
筑波禰爾曾我比爾美由流安之保夜麻安志可流登我毛  
左禰見延奈久雨  
〜  
そがひ背向くあつて山ウツ下野固ウツ〜  
あつていふとたはるる〜  
いふとたはるる〜

筑波禰乃伊波毛等持呂爾於都流美豆代爾毛多由良爾  
和家於毛波奈久爾

つらねのいをもとつらよおつらみづよふたゆふわのおははたのくよ

おつらよハ名流ノ子流ノてハ依リヨシ終人トハおつらよハ名流ノ子流ノて

たゆふよよのてハ名流ノ子流ノてハ男のことあやづみくたのつら

おつらよハ名流ノ子流ノてハ男のことあやづみくたのつら

家ハ依リヨシトク

筑波禰乃乎氏毛許能母爾毛利漱須惠波播己毛禮持母  
多麻曾阿比爾家留

つらねのいをもとつらよおつらみづよふたゆふわのおははたのくよ

おつらよハ名流ノ子流ノてハ依リヨシ終人トハおつらよハ名流ノ子流ノて

たゆふよよのてハ名流ノ子流ノてハ男のことあやづみくたのつら

左其呂毛能乎豆久波禰呂能夜麻乃佐吉和須良延許波  
古曾那乎可家奈波賣

さころのいをもとつらよおつらみづよふたゆふわのおははたのくよ

さころの波禰乃のいハ名流ノ子流ノてハ男のことあやづみくたのつら

おつらよハ名流ノ子流ノてハ依リヨシ終人トハおつらよハ名流ノ子流ノて

たゆふよよのてハ名流ノ子流ノてハ男のことあやづみくたのつら

おつらよハ名流ノ子流ノてハ依リヨシ終人トハおつらよハ名流ノ子流ノて

乎豆久波乃禰呂爾都久多思安比太欲波佐波太奈利努

平萬多禰天武可聞

をづくはのねるよとていあひまはなかりぬまもねてんのも

つくぐ月立<sup>ツクグ</sup>入<sup>イ</sup>初月<sup>ハツキ</sup>をいあひまよ<sup>イ</sup>間夜<sup>マヤ</sup>若<sup>ニ</sup>佐波<sup>サハ</sup>太<sup>タ</sup>の太<sup>タ</sup>余<sup>ヨ</sup>の後<sup>ノチ</sup>を

と<sup>ト</sup>はふち<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>初月<sup>ハツキ</sup>の<sup>ノ</sup>え<sup>エ</sup>う<sup>ウ</sup>は<sup>ハ</sup>違<sup>ヒ</sup>て<sup>テ</sup>も<sup>モ</sup>同<sup>ド</sup>じ<sup>ジ</sup>の<sup>ノ</sup>を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

れ<sup>レ</sup>い<sup>イ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ん<sup>ン</sup>は<sup>ハ</sup>や<sup>ヤ</sup>ん<sup>ン</sup>又<sup>マタ</sup>ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ん<sup>ン</sup>あ<sup>ア</sup>や<sup>ヤ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

乎都久波乃之氣吉許能麻欲多都登利能自由可汝乎見

年左禰射良奈久雨

なづくのまばきこのあまたい<sup>イ</sup>のめ<sup>メ</sup>のな<sup>ナ</sup>あ<sup>ア</sup>ん<sup>ン</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

冠<sup>カ</sup>す<sup>ス</sup>考<sup>カ</sup>う<sup>ウ</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

よ<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

目<sup>メ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

方解十四上 十九

也<sup>ヤ</sup>三<sup>サン</sup>毛<sup>モウ</sup>礼<sup>レイ</sup>と<sup>ト</sup>宗<sup>ソウ</sup>待<sup>タイ</sup>莫<sup>モク</sup>国<sup>クニ</sup>と<sup>ト</sup>莫<sup>モク</sup>と<sup>ト</sup>真<sup>シン</sup>の<sup>ノ</sup>信<sup>シン</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

比多知奈流奈左可能宇美乃多麻毛許曾比氣波多延須

禮阿舒可多延世武

ひ<sup>ヒ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ア</sup>な<sup>ナ</sup>も<sup>モ</sup>の<sup>ノ</sup>う<sup>ウ</sup>の<sup>ノ</sup>た<sup>タ</sup>ま<sup>マ</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>け<sup>ケ</sup>た<sup>タ</sup>ま<sup>マ</sup>れ<sup>レ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>た<sup>タ</sup>ま<sup>マ</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>

た<sup>タ</sup>ま<sup>マ</sup>い<sup>イ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ん<sup>ン</sup>は<sup>ハ</sup>や<sup>ヤ</sup>ん<sup>ン</sup>又<sup>マタ</sup>ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ん<sup>ン</sup>あ<sup>ア</sup>や<sup>ヤ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>

右十首常陸國歌

比等未奈乃許等波多由登毛波爾思奈能伊思井乃手兒

我許登奈多延曾禰

ひとみちのこゝたゆもさふらあびりぬのてごごごとなつてゐるね  
許等ハ言ハ填科郡の石井とて里の名をいふてこふよいつゝまづての  
人の言ハ此とてゐるのよえが許よりこの言ハ終るふなりつゝちんと里のよ  
ちんちん

信濃道者伊麻能波里美知可里婆禰爾安思布麻之牟奈  
久都波氣和我世

志まぬぢいまのちみちがやをねあふまむなくつをけわのせ

續紀和銅六年美濃信濃二国之堺經道險阻往還艱難仍通言換路  
此所のふかよとの變道といつる時代のまづり、且秋ふも變らるるは本所  
を刈除るゝと切道のみと踏く、只害よとといつり、かやをねハおの根を  
り之ハ古よりハ小竹之川材雖足跡破まゝくつをけりせハ昔著立夫ハ  
は新をりのをとせりて海へ男もる女のこい

信濃奈流知具麻能河泊能左射禮思母伎彌之布美氏婆  
多麻等比呂波牟

志まぬぢいまのちみちがやをねあふまむなくつをけわのせ

此川ハ筑摩郡在リ今ハ他郡ハ此川の名をよごさるハされ  
りこふみてが流てあふとぬりあけ

中麻奈爾宇伎子流布禰能許藝氏奈婆安布許等可多思  
家布爾思安良受波

ちのまぢいまのちみちがやをねあふまむなくつをけわのせ

中麻奈地名ちまな、まらでハ信濃ありせんよち、中をまら川に  
和名抄更科郡小谷 宇字 奈 小縣郡童女 牟 無 といふ地も、古ハ牟をよと云  
一の女子と牟奈子といふが、中ハの上中下といふこと、西より  
てとてあや、推してこの説ち、れと人よ問ん、あやと、このをハ西方

のあゝ又此後入流る川ちよあふのりてり思ふあそ女のこと  
かゝ程よあふ歌をききしよ船ゆく橋ゆく先細くきく一日を  
おとせしりやうと

右四首信濃國歌

比能具禮爾宇須比乃夜麻乎古由流日波勢奈能我素低  
母佐夜爾布良思都

いのどれはうまひのやまよとゆるしらせちのぞいでまやよやうらうら

いのどれは日まきし松のまきと和名抄上野碓氷郡宇須をうらまひ

のうまきしりりまよおれしとてしりり我振袖とて夫の又つんあ

と昔うらうらとちん勢奈能我夫名根之此下よ伊母能良尔と

もも妹根等尔しりり夫名の名即名まきと美とまき古の例之

根ハ物の本とつりり申てまきと天をと後根子と申てまつり

父ハス

母とたりち根婦と吾根名根と

安我古非波麻左香毛可奈思久佐麻久良多胡能伊利野  
乃於父母可奈思母

あづいハまきしりりかたしとてまきとたのりあめのねくかたし

まきしりりまきしりり松のまきと和名抄上野碓氷郡

此郡を置し和銅三年の紀まきしりり入野ハその中へ於て其の父

ハ父の孫とまきしりり夫の孫のこを孫とまきしりりおてまきしりり

しりり於てハ入野の奥とつりりまきしりり

可美都氣努安蘇能麻素武良可伎武太伎奴禮持安加奴  
乎安持加安我世牟

かみつけぬあそこのまきしりりまきしりりあそこのまきしりり

かよつ毛野の周るハ此勢ハ之の詞とあそこの安蘇ハ下よし安蘇ハ



よみ、そあそくしり、里みゆる、志麻の群り、くまを、序とら、かき、抱む  
かき、身抱ムダキ、く、麻の群、く、も、川と、か、抱、束、ゆる、と、ね、く、く、お、抱、て  
寝、ぬ、抱、あ、と、何、く、吾、と、し、後、の、ゆ、く、と、ら、

可美都氣乃乎度能多持里我。可波治爾毛兒良波安波奈  
毛比等理能未思氏。

かみつけの、と、どの、た、ど、り、が、ら、も、あ、も、こ、ら、あ、わ、も、ひ、ち、の、み、り、て  
こ、ら、の、野、の、こ、も、あ、と、ま、り、あ、と、ゆ、と、どの、た、ど、り、が、こ、ら、の、野、之、田  
野、等、之、川、道、ふ、し、と、り、の、お、名、お、甘、楽、緑、野、群、馬、の、三、郡、お、の、く  
小、野、の、こ、あ、り、げ、中、ま、も、と、り、せ、と、持、と、ま、り、は、く、以、川、海、里、を、ま、れ、く、  
人、同、ち、も、あ、る、れ、が、く、あ、と、多、智、ひ、何、ま、い、あ、あ、り、や、し、の、し、ん、と  
り、く、び、り、よ、も、達、く、の、せ、ふ、あ、く、る、ん、く、ま、の、こ、ら、あ、く、せ、れ  
う、し、よ、み、つ、ま、ぬ、こ、ら、の、お、後、ち、し、ど、お、考、べ、

刀解十四上 廿二

或本歌曰。可美都氣乃乎野乃多持里我。安波治爾母世  
奈波安波奈母美流比登奈思爾。

安波治の安、可のほ、ま、り、

可美都氣野左野乃九久多知乎里波夜志安禮波麻多牟  
惠許登之許又登母。

かみつけぬ、ま、ぬ、の、く、た、ら、も、ち、や、あ、れ、ま、い、ん、と、こ、ら、こ、ら、も、  
た、ぬ、い、ん、と、ま、り、し、り、ま、り、く、く、く、く、和、名、抄、置、久、知、曼、普、之、苗、也、  
か、ら、台、記、ま、り、の、饗、膳、ま、堂、ま、と、ま、り、と、り、お、ん、と、ち、お、の、ま、り、  
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、  
夜、斯、く、吾、完、い、ん、と、ま、り、は、長、志、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、  
天、智、紀、ま、り、阿、例、播、俣、流、之、衛、と、二、つ、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、  
よ、ち、や、の、ち、り、甲、二、と、こ、ら、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、



かのあめめあひのちてふやうにふいごお辰しめしんとしんぢぢぢてあ  
 えのとあのぬたまで、老人ハサハサとくさくさとくさくといふらんぞ  
 らとのいふハサハサとくさくといふぬたでもいふの何程うか  
 妻申ハサハサの信るすんといふ、梅ノカハ巴の信るくくつとくさく  
 ぢぢぢ  
 伊香保呂能蘇比乃波里波良禰毛巴呂爾於久乎奈加禰  
 曾麻左可思余加婆

此下ハいづちのそのいのちうぐせまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ  
 とよめりそいひの岬のちうぐせまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ  
 るこの句ハよつぐむらうちとさるねるハも棟原の豊原とよ来の  
 うよめりそいひの岬のちうぐせまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ

万解十四上 廿四

多胡能禰爾與西都奈波倍氏與須禮騰毛阿爾久夜斯巨  
 之曾能可把與吉爾

小つご〜〜〜のちうぐせまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ  
 たりんよつぐむらうちとさるねるハも棟原の豊原とよ来の  
 まらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ  
 其年ニかくれとくハつぐせまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ  
 て因をひいてつぐせまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ  
 リハよめあやまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ  
 と言ハらふハ、衣ハよめあやまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ  
 らつぐせまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ

賀美都氣野久路保乃禰呂乃久受葉我多可奈師家兒良

雨伊夜射可里久母

かみつけぬくろ厚のねろのくさばいづがきりけらにいやなうめくも

くろほのぬちくまのい、豆良のゆ多るれくぞをぐの昔葉うづん

かちけいかにききくをさるさこいやざりうくハは放来し暮のづの遠

がうりせると厚とせうそはたは姉は遠く其を教くそ又防人

のさうきくひまし道とより、又サリよとすはぐハ地名ちんのか考

考

刀禰河泊乃可波世毛思良受多多和多里奈美爾安布能  
須安赦流伎美可母

さねがみかちせとまてすたわらるるたまふあいのすあつるまふのも

利根郡へおれハちれハりくわのこ直涉とらんはらよきあくあや

しくかこまかすあきとよめる女のかんまきとえ唐本多太乙く

五解十四上 廿五

伊香保呂能夜左可能為提爾多都努自能安良波路萬代  
母佐禰宇佐禰氏婆

いのいろのやまのぬまよたつぬのあふるるまでいねをさるねてた

モ固人のいさハいらぬは夜の中上よきくはのこ方ハいづまち

一方ハ并んてゆん、まの井ハ水のあそあそあてよきとま、さられハ

やまのハこまのあるその名堰<sup>サ</sup>たよとつるゆわとめそ堰ちん

虹とをぬまぬづとらう、虹ハ水の氣ちれハあがよきまづハそり

あそとやう、よまみりれてあつとま、いづかおぼるるまはくハあ

らげくよん

可美都氣努伊可保乃奴麻爾宇惠古奈宜可久古非牟等  
夜多禰物得宋家武

かみつけぬくろのぬまにうちをまかこいんをたねなめくん



いづやせよ、伊香保、位かま、こ、い、こ、れ、せ、よ、い、忘、れ、せ、ら、ふ、二、の  
句の中次下の三文字は事のおぼやあ、ど、又、能、く、と、せん、一、他、の、例、字、の  
ゆ、き、遠、く、い、づ、れ、に、必、字、の、候、り、あ、る、と、い、ふ、こ、ろ、一、之、唐、本、に、次、と、吹、し、他、  
四、の、句、に、言、と、な、ら、ず、か、或、は、い、あ、れ、は、さ、ら、う、い、ふ、こ、ろ、一、此、ま、事、を、結、の、  
可美都氣努佐野乃布奈波之登利波奈之於也波左久禮  
騰和波左可禮賀信  
かみつけぬ、ぬのよなば、と、る、を、ち、お、や、は、さ、ら、う、い、は、さ、ら、う、れ、ぬ、ぬ、  
お、い、ハ、川、に、お、と、ま、さ、る、信、を、と、り、抗、し、つ、ま、か、ら、う、ぬ、つ、ま、あ、れ、は、か、く、い、  
て、思、ひ、つ、ま、中、一、と、い、ふ、こ、ろ、一、み、た、く、く、し、う、禮、官、本、流、に、能、く、と、い、ふ、こ、  
わ、は、さ、ら、う、ぬ、ぬ、ハ、お、い、ハ、ぬ、え、ん、や、ぬ、ら、ぬ、と、い、ふ、こ、ろ、一、さ、ら、う、ま、や、た、ら、な  
そ、ら、う、こ、ま、あ、ら、ぬ、我、弁、い、づ、れ、い、づ、れ、と、い、ふ、こ、ろ、一、さ、ら、う、い、づ、れ、い、づ、れ、と、い、  
作可流我信、と、い、ふ、

敵  
誤  
ラ  
敵

伊香保禰爾可未奈那里曾禰和我倍爾波由惠波奈家村  
母兒良爾與里氏曾  
い、の、屋、集、か、み、ち、く、ま、そ、ね、わ、づ、ま、ハ、ゆ、ち、ハ、な、げ、し、と、い、ふ、こ、ろ、一、さ、ら、う、い、づ、れ、  
か、み、ハ、雷、を、お、ま、人、の、お、ま、う、い、こ、も、あ、ら、ぬ、お、ま、ら、ぬ、お、ま、ら、ぬ、と、い、ふ、  
さ、ら、う、い、づ、れ、い、づ、れ、と、い、ふ、こ、ろ、一、さ、ら、う、い、づ、れ、い、づ、れ、と、い、ふ、  
伊香保可是布久日布加奴日安里登伊倍村安我古非能  
未思等伎奈可里家利  
い、の、屋、集、か、み、ち、く、ま、そ、ね、わ、づ、ま、ハ、ゆ、ち、ハ、な、げ、し、と、い、ふ、こ、ろ、一、さ、ら、う、い、づ、れ、  
い、の、か、風、ハ、依、保、風、を、き、風、を、と、い、ふ、こ、ろ、一、  
可美都氣努伊可抱乃禰呂爾布路與伎能遊吉須宜可提  
奴伊毛賀伊敵乃安多里  
い、の、み、つ、な、ぬ、い、づ、れ、の、ね、る、よ、ら、ぬ、い、づ、れ、の、ね、る、よ、ら、ぬ、い、づ、れ、の、ね、る、よ、ら、ぬ、



あひづねのいほまふいほみあはまふまねひまんとむむまふまね  
和名抄會津郡ねのたへ作のあはまふまね困達くあはまふまね相無く  
下よりあはまふまねあはま信くまふまねくまふまねのくと相下りま  
むまふまねハむまふまね防人の別のあはまふまねまふまね三三三三三  
してまふまねあひづねのあはまふまねまふまねまふまねまふまねまふまね  
元房本物の年と毛まふまねまふまね

筑紫奈留爾抱布兒由惠爾美知能久乃可刀利乎登女乃  
由比思比毛等久

つゝたさふひよこゆあまふまねののがたひまのあひづねのむし  
みかハ艶のあひづねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねの  
まふまねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねの  
まふまねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねの  
まふまねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねのあひづねの

安太多良乃禰爾布須思之能安里都都毛安禮波伊多良  
牟禰度奈佐利曾禰

あづらののあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねの  
まふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねの  
まふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねの  
まふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねの  
まふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねの  
まふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねのあづまふまねの

右三首陸奥國歌

譬喻歌

等保都安布美伊奈佐保曾江乃水乎都久思安禮乎多能  
采氏安佐麻之物能乎



とよつあふみいもほそそみのみもつらう。あれむたのめてあひまたのめ  
引作和江引作取をてあそつらのと天海くくてもは渡さくふのめあひもつらうと  
得てうたあそいふためまてのことばあまのといはれあまののこと

右一首遠江國歌

斯太能字良辛阿佐許求布禰波與志奈之爾許求良采可  
母與奈志許佐流良采

志太能字良辛阿佐許求布禰波與志奈之爾許求良采可  
母與奈志許佐流良采  
志太能字良辛阿佐許求布禰波與志奈之爾許求良采可  
母與奈志許佐流良采  
志太能字良辛阿佐許求布禰波與志奈之爾許求良采可  
母與奈志許佐流良采  
志太能字良辛阿佐許求布禰波與志奈之爾許求良采可  
母與奈志許佐流良采  
志太能字良辛阿佐許求布禰波與志奈之爾許求良采可  
母與奈志許佐流良采

万解十四上 三十

其さるらんしりうるん大おえ房中余はゆりこささるるめハ言ふまじ  
らあふされどこらしりうるん

右一首駿河國歌

阿之我里乃安伎奈乃夜麻爾比古布禰乃斯利比可志母  
與許巴波故賀多爾

あがのあまのやまのしこあねのまがびりかよこいこのいふ  
あがのあまのやまのしこあねのまがびりかよこいこのいふ  
あがのあまのやまのしこあねのまがびりかよこいこのいふ  
あがのあまのやまのしこあねのまがびりかよこいこのいふ  
あがのあまのやまのしこあねのまがびりかよこいこのいふ  
あがのあまのやまのしこあねのまがびりかよこいこのいふ  
あがのあまのやまのしこあねのまがびりかよこいこのいふ  
あがのあまのやまのしこあねのまがびりかよこいこのいふ

阿之賀利乃和乎可雞夜麻能可頭乃木能和乎可豆佐禰





まいハ智の尾鐸之かんきびハ後河志太取志太の里は上下まゝく  
 かつんをの知致明紀長日箭田珠勝大兄皇子仲曰譯語田津中倉  
 太珠敷者サ曰芝健皇女といは仲とわのちとよかり古きわうとぞ  
 きふかつらの中男といぞ一、所ハ脚群といふらハけりつたのりんとぞ  
 子ハを指へ又志十九まつとぶりを初鷹指とちもは初をりてちかて  
 ち指へあまの殿といハ國の守今まのちとぞ一、ふ取日國邊の  
 ちとよりちりきハ後河國府ハ安部取まちと後河海は伊波太  
 ナルニダベノト  
 奈留之太戸乃止乃くうハ志多取の初頃のちとぞ一、ふれんもと  
 今を考るまかん志だハ後河  
 或本歌曰美都我野爾又曰和久胡思  
 わくごハ若子くハと出

奈伊毛我多太手欲

まどがぬのまのまのつみるのみづきなまへはのよおたてよ

奈伊毛我多太手欲  
 まうもやハ早馬いん、紀も驛といまと列りつみおはまらくくハ  
 ちく首井い、そ女の由級けよ直ま娘のよよちねくといふ

許乃河泊爾安佐奈安良布兒奈禮毛安禮毛余知乎曾母  
 氏流伊低兒多婆里爾

このはよあまのちとぞ一、ふれんもとぞ一、ふれんもとぞ一、ふれんも  
 余知とハ知余とく、古わよようの改ま余知古良とよたづまうとく  
 十ちよよれらるるの四千ちとぞ一、ふれんもとぞ一、ふれんもとぞ一、ふれんも  
 母氏流ハよよけりといふとぞ一、ふれんもとぞ一、ふれんもとぞ一、ふれんも  
 低ハいん、そ女の由級けよ直ま娘のよよちねくといふ

今余知  
ヲ知余三

かゝらうぐー、或人ハ多美里木の糸六祿の信うんとあり  
一云麻之毛安禮母

まはのまー

麻等保久能久毛為爾見由流伊毛我敝爾伊都可伊多良  
武安由賣安我古麻

まはののこちおまみゆるいりまよじつうらんあゆめあごのこま  
まはのまよて遠くは妹のハ妹を安我ハまよ

柿本朝臣人麻呂歌集曰等保久之氏又曰安由賣久路  
古麻

安豆麻治乃手兒乃欲妣左賀古要我禰氏夜麻爾可禰牟  
毛夜孖里波奈之爾

あつまぢのたごのよしごのこえがわてやまふねんまどひのちうふ

かゝらうぐー、或人ハ多美里木の糸六祿の信うんとあり  
一云麻之毛安禮母  
まはのまー

宇良毛奈久和我由久美知爾安乎夜宜乃波里込多氏禮  
婆物能毛比豆都母

うらまねわのゆこみちあをやまのはりてたてれまのむしづも  
うらなはくハ何んをまをてまれづ、柳の芽の生るる物こい  
出つといふを思々をなれば上のつを湯きよせり、豆一本豆は他ふ、  
そのむしでつり、あひかまてこと同。

伎波都久乃字加能久君美良和禮都賣孖故爾毛乃多奈  
布西奈等都麻佐禰

きはづのせいのくみらわれまはのつなせなうしまなぬ









神名帳に常陸国那賀郡酒列磯崎神社に、是をまじりてつるひあてのくち  
しあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
こまりしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
せしめたるたごひりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
尊秋則放天斑馬使伏田中よりあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
あしきさしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
さるれば、そのまじりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
まじりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
をよの毛よけのいづきあるあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
草つ

於毛思路伎野乎婆奈夜吉曾布流久左爾仁比久佐麻自  
利於非波於布流我爾  
おもへるまじりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて

万解十四上 三十八

我ふハがねふ甲の河まぐ改らり、是ハたがまのあのみ

可是乃等能登抱吉和伎母賀吉西斯伎奴多母登乃久太  
利麻欲比伎爾家利

かぜのものとほむしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて

風のの梅河、そハ防人まじりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
てまじりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
衣層のまじりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
らぶらハ縁と同ドク、枝の上より下までまじりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて

爾波爾多都安佐提古夫須麻許余比太爾都麻余之許西  
禰安佐提古夫須麻

あはまたあせぐ、まじりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて  
あそくたつ梅河麻布の小舎、提ハ多倍の物まじりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりてしあひいしりて

此本むとこよひにうるといふつまよりこせぬまよりの本を  
米麻の糸よりあひてつるがあられど、き九味のとあけ止りよんまの社  
妻依本西尾妻といひたがうといふほど、神代紅妹盧豫嗣尔豫  
嗣豫利穂、これ八日依り依り来たりと



除本外、其の他、  
大正十一年、  
三月、  
...

万解十聖 三十九終

